

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成21年10月13日(木)
5校時

場 所 3年2組教室

学 級 3年2組

(男子18名 女子17名 計35名)

授業者 大槌町立大槌中学校

教諭 吉田 寛子

1 単元名 「4 古典を楽しむ

音読を楽しもう 古今和歌集仮名序

君待つと 一万葉・古今・新古今一

夏草 一おくのほそ道から一

学びて時にこれを習ふ一「論語」から一」 (光村図書3年)

2 単元について

(1) 教材観

新学習指導要領の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、「ア(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと」、「イ(ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと」などが指導事項として挙げられている。これは、「古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること」という、現行の学習指導要領を受けたものである。1年次では、古典の文章との「出会い」となる内容を、2年次では、古典に「親しむこと」を重点に扱う。3年次では1, 2年生での既習事項を生かした「古典を楽しむこと」につながっている。本単元は、日本を代表する有名な作品であり、中学校の古典学習の仕上げとなる。そこで音読を通して原文に読み慣れることや、脚注や口語訳文を参考にしながら内容を理解した上で、昔の人々の考え方を自分の考え方や生き方に生かすことを授業に盛り込みたいと考えている。

第二教材「君待つと」は三つの歌集の中から代表的な作品が紹介されている。和歌は散文と違い、生徒にとっても取り組みやすい形態と言える。古文の表現や定型詩特有のリズムを味わいながら作者の思いにせまることを目指すと共に、三つの歌集のそれぞれの特徴に気付かせる展開の工夫を行う。和歌が古典時代の重要な意思伝達の手段として位置付けられていた時代背景などをふまえて、古典の世界に親しませていく。

(2) 生徒観

男女ともに、積極的に自分の意見を述べようとする生徒や課題に前向きに取り組む生徒がみられ、授業が概ね良好な雰囲気の中で進められる学級である。しかし、全体の集中力が持続する時間が短く、長い文章から目を離さずに読み通す粘り強さにやや欠ける傾向にある。また、一部の生徒の意欲の揺れが大きく、その生徒の言動に流されそうになることもある。

4月に行われたNRT検査の結果を見ると、どの領域も全国平均偏差値に満たず、特に「読むこと」が落ち込んでいる。また、どの領域も男子より女子の方が正答率が高い。

読み物教材には概ね意欲的に取り組むが、教科書から目が離れてしまい、描かれている事象を誤って理解したり、一部分だけを読んで、思いこみで解釈してしまう生徒もある。歴史的仮名遣いにより、内容理解がやや難解な古典の文章には少なからず抵抗感をもつ生徒が多いので、古典の世界に興味をもつことができる授業を展開していきたい。

(3) 指導観

古典学習のまとめとなる3年生の学習では、どの生徒も意欲をもって学べる展開の工夫や、昔の人の考えを現代を生きる自分の考えに生かすことを意識した授業を目指したいと考えている。

和歌の読み取りは作者の世界や歌の背景をどれだけ想像できるかが、理解の面でも重要である。「万葉集」の幅広い作者と素朴さ、「古今和歌集」が宮廷文学であることや表現への技巧、「新古今和歌集」の自然美や繊細な感情を、とらえることができるようにしたい。そこで、個々の学習状態を見取り、さらに生徒が学習に対する意欲をもちながら叙述を正しく読むことができるよう、次のような手だてを組む。

- ①小グループでの話し合いを展開の中に位置付け、一人一人が言葉と関わりながら自分の読みに生かすことができるようにしたり、学習に対する目的意識を持続したりすることができるようにする。
- ②古典の韻文に対する抵抗感が生まれぬよう、現代語訳のプリントやワークシート、ヒントカードを効果的に用いる。

3 単元の目標

【 国語に対する関心・意欲・態度 】

- 古典の世界を読み味わう楽しさをとらえさせ、進んで作品に親しもうとする態度を育てる。

【 読むこと 】

- 古典の中で表現されている社会、自然、人間の生き方などについて読み取り、自分の意見をもつことができる。

【 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 】

- 語調や定型のリズム等により歌い出される昔の人のものの見方、感じ方をつかみ、作者の心情や情景について読み味わう。

4 単元の評価規準

【 国語に対する関心・意欲・態度 】

- ・ 古典に対して関心をもち、自分の思いを結び付けながら古典のよさをとらえようとしている。

【 読むこと 】

- ・ 表現の工夫に注意して、それぞれの時代における人々の考え方や心情をとらえ、自分の考えをもちながら読んでいる。

【 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 】

- ・ 音読を通して歴史的な背景に注意して古典を読み、独特の響きを感じ取っている。

5 単元の指導計画と評価規準（全11時間）

	学 習 内 容	評 価 規 準		
		関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
1	「古今和歌集 仮名序」を声に出して読み、古文の言葉のリズムや響きを味わう。	「仮名序」の原文を進んで音読し、進んで読み取ろうとしている。		音読を通して「仮名序」内容や特徴を読み取ることが出来る。
	「君待つと」に含まれる3つの和歌集の特色を押さえ、和歌を通読して学習の見通しをもつ。	和歌の定型のりに注意しながら進んで作品に向かおうとしている。		定型のリズムに注意しながら音読したりそれぞれの和歌集の特色をまとめることが出来る。
2 3	万葉集を音読し、歌に含まれている情景や感情を読み味わう。	万葉集の代表的な和歌を進んで音読し、読み取ろうとしている。		助詞のない表現や係り結び等、古文特有の表現によって歌い出される昔の人のものの感じ方や考え方をとらえる。
4	古今和歌集と新古今和歌集を音読し、歌に含まれている情景や感情を読み味わう。	古今和歌集と新古今和歌集の代表的な和歌を進んで音読し、読み取ろうとしている。		助詞のない表現や係り結び等、古文特有の表現によって歌い出される昔の人のものの感じ方や考え方をとらえる。
5 本 時	自分の心に響いた一首を選んで読みを深め、鑑賞文を書く。	音読や和歌や歌集に親しみながら昔の人のものの感じ方や考え方をとらえようとしている。		自分が選んだ和歌について内容をとらえ、歌のよさについて鑑賞文でまとめることが出来る。
6	「おくのほそ道」と松尾芭蕉についての基礎知識をおさえ、1の部分を読んで内容をとらえる。	芭蕉やその作品に関心を持ち、進んで読み取ろうとしている	表現をたどりながら、1の部分について、芭蕉のものの見方や感じ方をとらえる。	口語訳や脚注と対照させながら漢文調の言い回しや対句表現等に注目して俳句や文章の内容を理解することが出来る。
7	「おくのほそ道」の2の部分を読み、口語訳をとらえる。	芭蕉やその作品に関心を持ち、進んで読み取ろうとしている。	表現をたどりながら2の部分について、芭蕉のものの見方や感じ方をとらえる。	脚注を参考にしながら漢文調の言い回しや対句的表現等の特徴をとらえ、口語訳をまとめたり、俳句の内容を理解する

	学 習 内 容	評 価 規 準		
		関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
8	1と2を読み味わい芭蕉のものの感じ方や考え方をとらえる。	芭蕉やその作品に関心を持ち、進んで読み取ろうとしている。	1・2の文章に表れた、人生に対する芭蕉のものの見方や感じ方に対する自分の意見をまとめることが出来る。	歴史的背景や表現の効果に着目して、1, 2の作品に表れた芭蕉のものの見方や考え方をとらえることが出来る。
9	孔子が生きた歴史的背景をおさえ、「論語」に述べられている孔子のものの見方や考え方をとらえる。	孔子が生きた歴史的背景を知ることと進んで作品に向かおうとしている。		孔子が生きた時代背景や「論語」にまとめられた大まかな内容をとらえ、漢文の基本的なきまりを理解し、読み慣れることが出来る。
10	「論語」の四つの言葉を読み、そこに描かれた孔子の考え方をとらえる。	進んで音読したり作品に向かおうとしている。	「論語」の四つの言葉に表れた孔子のものの見方や考え方について、自分の考えをもつことが出来る。	「論語」の言葉に表れた孔子の人間の生き方についての観察や思索をとらえることが出来る。
11	「身の回りの漢字」の設問に答えながら、慣用表現や漢語に対する理解を深め、活用する。	設問に進んで取り組み、数を使った表現や慣用表現等の成り立ちや構成を理解しようとしている。		数を使った表現や慣用表現等の熟語の構成や成り立ちを理解し、短文作り等の活動を通して、適切に使うことが出来る。

6 本時の指導

(1) 目標

- 音読や和歌や歌集に親しみながら、昔の人のものの感じ方や考え方をとらえようとしている。

【 関心・意欲・態度 】

- 作品のよさや歌にこめられた思いなどについて鑑賞文にまとめ、和歌のよさについて感じ取ることができる。

【 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 】

(2) 本時の評価規準

観 点	A：十分満足できる	B：概ね満足できる	C：努力を要する 生徒への支援
国語への関心・意欲・ 態度	音読や和歌、歌集に親しみながら、昔の人のものの感じ方や考え方を積極的にとらえようとしている。	音読や和歌、歌集に親しみながら、昔の人のものの感じ方や考え方を自分なりにとらえようとしている。	ヒントカードの活用やグループ内で話し合ったことを参考にさせて、イメージを膨らませるように促す。
伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	脚注を参考にしながら和歌に込められた作者の思いや情景を想像し、自分の考えや感想を表現することができる。	脚注を参考にしながら、自分が選んだ和歌の大意をとらえ、よさをみつけて表現することができる。	ヒントカードを与えたり、グループ内での相談を促し、まとめる内容の参考とさせる。

(3) 構想および個に応じた指導の工夫点

授業の目標の設定によっては、上位の生徒がもの足りなさを感じてしまったり、下位の生徒が口語訳を十分に理解できずに、まとめる内容をイメージ化させることが難しかったりする。個に応じた指導を目指して、次のことを読むための手立てとして行いながら授業を展開したい。

- ① ヒントカード：鑑賞文を書くにあたり、援助が必要な生徒にはヒントカードを準備し、理解を助けたり意欲につなげる。
- ② 学習形態：小グループで話し合い、互いの読みや考えを豊かにすることで意欲につなげたり、他の生徒の意見を参考にしながら自分がとらえた歌の世界を膨らませたりすることができるようにする。また、下位の生徒も話し合いの内容を手がかりに自分の考えをまとめることができるようにする。
- ③ VTR資料等：日本文化の象徴としての和歌のよさを、根拠となる映像を視聴させることを通して実感させたり、より深い理解につなげる。発展的な学習として位置付ける。

(4) 展開

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	○評価【方法】 ☆支援の手だて
導 入 3 分	1 前時の活動を想起する。 2 学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題（自分が選んだ和歌の好きなところを書いてくる）を確認する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 三大歌集の鑑賞文を書いて、和歌のすばらしさを考えよう！ </div>			
展 開 44 分	3 学習方法を確認する。 ＊鑑賞文とはどのような文章か。 ＊今日の鑑賞文のポイント その和歌の好きなところと理由 どんなイメージをもったか 4 グループで交流し合い、個々で鑑賞文をまとめる。 5 全体で鑑賞文を発表し合う。 6 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のすばらしさについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞文の意味と、手本となる鑑賞文（教師自作）を提示し、書き方のポイントを示し、自分の思いや考えを表現するために効果的に用いることができるようにする。 ・交流の手順と、話し手の感じ取った表現のよさに注意して共感的に聞くことを具体的に示す。 ・同じ和歌を選んだ人が小グループを組み、その和歌について意見交流した後、個々で鑑賞文をまとめることを確認する。 ・宿題の自分の感想をもとに、鑑賞文の書き方に沿って書く。 ・鑑賞文は時間内で書ける範囲とする。 ・個々の鑑賞文を発表させる。要点を板書し、後で比較できるようにする。 ・共感的によさを感じ取ることができていることを称揚しながら、3つの歌集が現在まで読み継がれている理由や歌集の未来について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆交流が停滞しているグループへの援助をする。 ☆グループ内での相談を促す。それでも書けない生徒へはヒントカードを手がかりにさせる。 ○考えをまとめようとしているか。 【観察・シート】 ○自分なりによさを言えるか。 【発言・自己評価】
終 末 3 分	7 次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「おくのほそ道」を読むことを確認。 ・自己評価を記入させる。 ・家庭学習を指示する（学習したことを生かして、1首選び鑑賞文にまとめる）。 	